

JAPAN TODAY

2019年 MONTHLY 8,9月号

ジャパン・ツディ編集部 村井実・編集長 ☎160-0004 東京都新宿区四谷4の6の1 四谷サンハイツ1205号
ジャパン・ツディは朝日、毎日、読売、産経、東京、日経、NHKにない独自の視点で解説。

令和元 参院選

「N国」と「れいわ」台風の目

国民そいつちのけ野党の火遊び

参院選(7・21、投票日) 票しても政治は変わらない。結果的に無視した形で放置して、インスタンタラメと並みの選挙戦に突入。その証に今回の参院選は今年5月になって、ようやく野党統一候補選に動き出した。この野党統一候補は毎度、風前の他力本願。どこまで統一なのか、首をかしげる。

野党は「政治とは戦(い)くさ」である。——という真剣さがなく、枝野幸男(立憲民主)と玉木雄一郎(国民民主)は野党の火遊びにみえる。だから、野党の政権交代が全々見えこない。

マスコミから見れば憲法改正に必要な与党の「3分の2」に注目していたが、結果は与党「過半数」で、とりえず過熱の改憲は遠のいた。

(目下、マスコミは朝日毎日、東京グループ対、読売、産経グループのつむぎ) しかし、国際情勢の急激な変化に日本はついていけないのか心許ない。

すでに報道されているように、今回の投票率は48.80%で5割を切り、戦後2番目の低さとなった。

なぜこのような数字になるかといえは、世論調査(朝日)でみられるように「投票日」に、野党はそれをほとんど結果的に無視した形で放置して、インスタンタラメと並みの選挙戦に突入。

その証に今回の参院選は今年5月になって、ようやく野党統一候補選に動き出した。この野党統一候補は毎度、風前の他力本願。どこまで統一なのか、首をかしげる。

敢える自民党は何と言われようと昨年12月末(又は今年正月)までに、ほぼ「自民公認」候補をそろえて、地道に政治活動を進めていた。従って、参院選は「自民大勝」と言えなくても、それなりの安倍政治の基盤を維持した。

自民は大人、野党は学生運動の類。私が野党に拘るのは、野党が強くなければ自民独裁(いや、自民独走か)も変わらぬ。日本政治が変わらない。と考えているからです。

立憲民主と国民民主がしっかりとしないから、日本政治をぶちこわしている。自民を批判する前に野党の学会を笑う。野党の生徒を笑う。



村井 実(むらい・みのる) 北海道日高村(現・日高町) 番外地生まれ。昭和43年、早大卒。毎日新聞記者を経て昭和48年、時事通信記者。警視庁記者クラブを経て国会記者。田中角栄から自民党歴代首相を取材。その間、ロッキード事件、田中金脈事件、リクルート事件を担当。宮内庁記者。昭和63年米国スタンフォード大学フーバー研究所入所。米国大統領のフォード、カーター、ブッシュ、さらにケネディ一族や英国のエリザベス女王、サッカー首相などインタビュー、単独会見。早大など3大学で教鞭をとる。「ジャパン・ツディ」編集長。

もう少しまじめに言う。野党を代表する立憲民主も国民民主も学生運動の域を出ていない。いや、学生運動以下だ。(自民の河野太郎外相、小泉進次郎は共に関与反対だが脱党しない。野田聖子は安倍首相に反旗で首相出馬の機会うかがうが、脱党しない。もつとやうー古い話だが民主党時代の野田首相は、小沢一郎の消費税反対約50人の脱党を勧め、野田は実行した。

これで日本野党主流の民権派は死んだ。有権者の国民は多く、消費税反対が圧倒的に多い。野田の器の小ささを証明した。右のことから権力闘争に生きる「自民は大人」。旧民主は子供の学芸会か学生運動の類(たゞい)で野田は小沢グループを排除すべきでなかった。

小沢一郎を擁護しているわけではない。権力闘争とはそういうもので、権力を取れないければ政治の夢は一片たりとも実現しない。——

そこで朝日(7・24)は立憲民主の枝野代表の「大きく成果を上げ、大きく前進した」や国民民主の玉木代表の「一定の成果が出た」をそのまま批判なく持ち上げていた。他紙もNHKも似たようなことだ。

とりわけ日本マスコミは与党に辛いのが野党に、ことさら甘く、これでは日本には野党は育たない。枝野、玉木の両氏は駅前などの大衆を前にして、「演説に酔っている」としか言いようがない。どんな立派な公約をしようとも、野党はしょせん野党。野党では予算の1円でも動かさない。

野党の本丸・連合は立憲民主(自治労などの官公労系)と国民民主(電力総連など民間労組系)に分かれ、参院選比例区で5人づつ計10人を立てた。

立憲は5人全員当選したが、国民は2人落選。国民から出た電器連合の組織内候補は個人票19万超を獲得し、立憲のトップ当選者を3万票余りを上回ったが、当選枠に入らなかった。

連合の神津里季会長は記者会見で「2度とこの選挙はやりたくない」と嘆いた。旧民主進党が2つに分かれた歪(ひずみ)は比例に端的に表われた。

右の言葉が真実だ。元を正せば立憲民主も国民民主も旧民主の同じ穴のむじな。旧民主は今回の参院選で立憲(改選議席9)と連立(17)、国民(同8)と(同6)で立憲は倍増した。——

元大阪市長は、そこを指摘しているが、私も同感。日本政治には建て前論が多いが、橋下氏にはそれが無い。——

米貿易、日韓悪化、自衛隊(「ゆるめた」フンドン)で続けようとするのか。この参院選野党惨敗で枝野、玉木はやがて総選挙に向けて野合するX日がある。——

それにしても旧民主時代からの悪しき伝統をここに指摘しておきたい。次に述べる私の意見は関東の有力な知事と一致した意見でもあるが、国政選挙で失敗して議席を減らしても主要三役はじめ主要大臣たちは「責任」をこらさず、その後何らかの役にとどまってしまう不思議。

本来なら枝野も玉木も責任をとらなければならない立場。双方ともケンカ向成敗で両代表とも辞任して後任にバトンタッチすべしなのである。それを全然実行しないのは民主主義でない。かつて自民党の三角大福ル放送を主張しているが、私も大賛成だ。

参院選告示の数日前、元ニューズキャスターの久米宏氏がNHKの朝の番組で「政府内閣のNHKが人事権と財政権を握るのは自由主義国家になじむものでなく世界でも、こんな民主国家はない」と批判した。私も同感だ。

そこで、政治が与野党と「こんなやうたらな日本政治なら、れいわ」と「N国」が合体して次の総選挙で自公を脅し野党を驚かせ、その議席に重慶の身障者に議席を与え、山本代表

総選挙でやがて枝野・玉木の野合のX日くる。——

世界がこれほど激動不安な時代(米朝の核交渉、中

自らは東京の選挙区から比例に転出したため落選したものの、比例区候補では99万票の個人票を集めた。この99万票は次の衆院選では100人規模の候補者を立てるといふから、台風の目となる。都内で売れゆきのよいタリタリで紙は次の「れいわ」票で「36議席」と早々と予測する数字まで掲げている。

一方、「NHKから国民を守る党」(N国)は参院比例区で1議席を得た。「N国」をぶつ壊す」を合言葉で代表となった立花孝志は、衆院選で出馬してなる可能性が高い。(注・19年の統一地方選では東京、千葉などで26人の公認候補当選)

立花氏は受信料を払った人だけがNHKを視聴できないようにする「スクランブル放送を主張しているが、私も大賛成だ。

参院選告示の数日前、元ニューズキャスターの久米宏氏がNHKの朝の番組で「政府内閣のNHKが人事権と財政権を握るのは自由主義国家になじむものでなく世界でも、こんな民主国家はない」と批判した。私も同感だ。

そこで、政治が与野党と「こんなやうたらな日本政治なら、れいわ」と「N国」が合体して次の総選挙で自公を脅し野党を驚かせ、その議席に重慶の身障者に議席を与え、山本代表

自らは東京の選挙区から比例に転出したため落選したものの、比例区候補では99万票の個人票を集めた。この99万票は次の衆院選では100人規模の候補者を立てるといふから、台風の目となる。都内で売れゆきのよいタリタリで紙は次の「れいわ」票で「36議席」と早々と予測する数字まで掲げている。

一方、「NHKから国民を守る党」(N国)は参院比例区で1議席を得た。「N国」をぶつ壊す」を合言葉で代表となった立花孝志は、衆院選で出馬してなる可能性が高い。(注・19年の統一地方選では東京、千葉などで26人の公認候補当選)

立花氏は受信料を払った人だけがNHKを視聴できないようにする「スクランブル放送を主張しているが、私も大賛成だ。

参院選告示の数日前、元ニューズキャスターの久米宏氏がNHKの朝の番組で「政府内閣のNHKが人事権と財政権を握るのは自由主義国家になじむものでなく世界でも、こんな民主国家はない」と批判した。私も同感だ。

そこで、政治が与野党と「こんなやうたらな日本政治なら、れいわ」と「N国」が合体して次の総選挙で自公を脅し野党を驚かせ、その議席に重慶の身障者に議席を与え、山本代表

自らは東京の選挙区から比例に転出したため落選したものの、比例区候補では99万票の個人票を集めた。この99万票は次の衆院選では100人規模の候補者を立てるといふから、台風の目となる。都内で売れゆきのよいタリタリで紙は次の「れいわ」票で「36議席」と早々と予測する数字まで掲げている。

一方、「NHKから国民を守る党」(N国)は参院比例区で1議席を得た。「N国」をぶつ壊す」を合言葉で代表となった立花孝志は、衆院選で出馬してなる可能性が高い。(注・19年の統一地方選では東京、千葉などで26人の公認候補当選)

立花氏は受信料を払った人だけがNHKを視聴できないようにする「スクランブル放送を主張しているが、私も大賛成だ。

参院選告示の数日前、元ニューズキャスターの久米宏氏がNHKの朝の番組で「政府内閣のNHKが人事権と財政権を握るのは自由主義国家になじむものでなく世界でも、こんな民主国家はない」と批判した。私も同感だ。

そこで、政治が与野党と「こんなやうたらな日本政治なら、れいわ」と「N国」が合体して次の総選挙で自公を脅し野党を驚かせ、その議席に重慶の身障者に議席を与え、山本代表

自らは東京の選挙区から比例に転出したため落選したものの、比例区候補では99万票の個人票を集めた。この99万票は次の衆院選では100人規模の候補者を立てるといふから、台風の目となる。都内で売れゆきのよいタリタリで紙は次の「れいわ」票で「36議席」と早々と予測する数字まで掲げている。

一方、「NHKから国民を守る党」(N国)は参院比例区で1議席を得た。「N国」をぶつ壊す」を合言葉で代表となった立花孝志は、衆院選で出馬してなる可能性が高い。(注・19年の統一地方選では東京、千葉などで26人の公認候補当選)

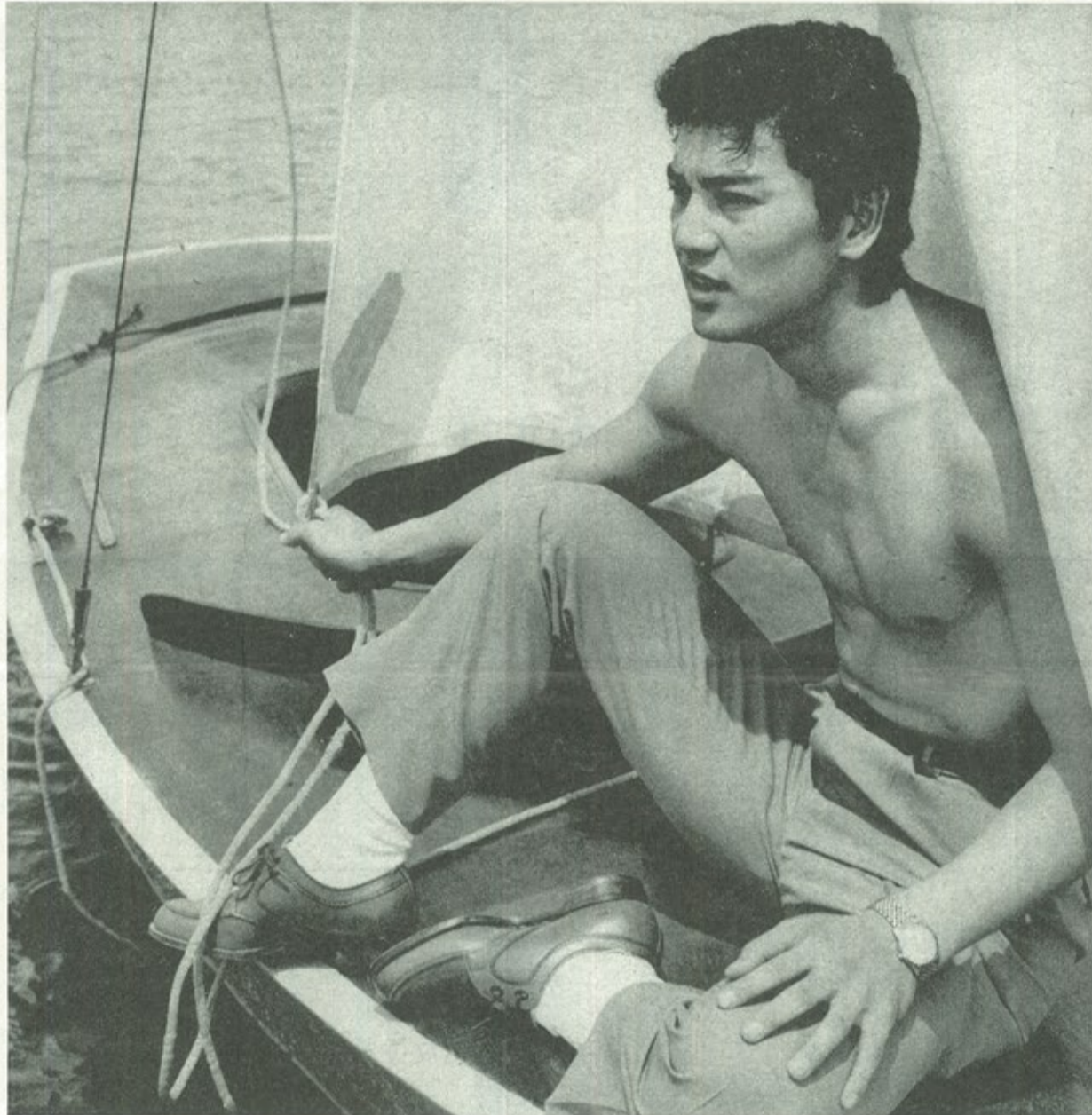
JAPAN TODAY

2019年 MONTHLY 8,9月号

新聞は時代を映す鏡である！(ジャパン・ツディは全国47都道府県庁、地方自治体に配布しています)
過去の歴史を学ばない者は、再び未来の歴史を誤るということを日本国民は知らなければならない

男の美学・赤木圭一郎の時代

- 昭和35年は赤木日活映画の全盛期。
- 命日には今も女性ファンが墓に献花。
- 野性の赤木は今も日本人の魂を揺さぶる。



- 赤木は海が大好きだった。
- ヨットに乗ることが大好きだった。
- 青春時代の夢は船乗りだった。

君は赤木圭一郎を知っているか？日活のスターだった赤木は日活撮影所内で、ゴーカーで壁に衝突。昭和36年2月だった。1週間後に死去。21歳。

私は当時、小樽の高校2年生。午後、雪降る下宿に帰って、ラジオのスイッチを入れると「赤木の死」を知った。わずか1年間で13作品を残して散った。

裕次郎、小林旭に次ぐ第3の男として日活を立って立つとみられていた。私は落胆した。

当時も今も芸能人は星の数ほどいるが、私の青春時代から今までの「孤独」と「哀愁」が似合うのは、やはり赤木しかない。さらに男らしい野性の魅力。

平成19年5月、生前、赤木のロケ地でもあった千葉県房総半島の鴨川市で、赤木没後50年に向けて懇談会主催の写真、遺品、サイン、グッズ展があった。

この会場に入った瞬間、赤木の上映ポスターが満載に飾られ、私は一瞬、昔の高校生の私に逆戻りした感覚に襲われた。

会場には50、60人いたが、年齢は男女とも50代ぐらが多かった。若者もいた。その中で知らない者同志の間から、中年男性がこの日の懇談会のために沖繩から飛行機でやってきた——と、同輩に近しい私に寄ってきて名刺を差し出した。

名刺を見ると、琉球大学の教授。私はビックリした。このために沖繩から千葉まで……私ほうなつた。

会場では私は若者とはほど遠いおやじだったから名刺を差し出すのをためらっていた。しかし、沖繩の教

授から堂々と名刺をいただいたので、私も大学講師の名刺を出した。すると沖繩の教授もビックリ。「ファン」とはいくつになっても「ファンだ」とお互いに大笑いになった。

こんなところで冗談を言うつもりはないが、日本の若者に告ぐ！LGBTなんぞにのめり込まないで「男の美学」の象徴、赤木圭一郎がこの世にいたことを忘れないでほしい。

ここに相馬尚文著「輝ける分水嶺——1960年の日本(赤木圭一郎の時代)」という本がある。相馬氏は昭和20年生まれで東大法学部。大学1、2年次は安保闘争もへっぴりだった。サラリと綴りながら一般学生生活、卒業後、金融界に入っただけの異色の本(平成17年初版)を発行。

相馬氏は私は同世代であるが、赤木映画の本質は「哀愁」であり「孤独」というのも、私と波長が合う。早世したから国民的大スターとはならなかったが、赤木がもし、長生きしていれば日活映画が消えることもなかった。赤木じまあ、映画界は東映のヤクザ路線に持っていかれた。

相馬氏は言う。「私からみれば、彼は最初は年上の兄貴。途中から同世代の友人。その後の大部分は年下の後輩であり、今や息子のようなものとなってしまった。

彼があたかも北極星のように、私の変化、老化をいやおうなく突きつけてくる。だから私も自分をそれとなく、この永遠の青年を見つめざるをえないので

ある」

この本の内容は3分の2は敗戦後の日本復興の経済、文化、世相などをあけて解説。

一方で氏は昭和35年当時の日活アクション映画について「赤木を主役にして取り巻きの黒幕は本当に悪人でないケースが多い」と作品の質の高さをほめる。

そして当時の昭和35年アクションを参考に、日本は岸政権に反対して(自衛隊も投入せず)岸内閣が倒れても、「革命」もなく、自民党政権が続く自由な国が続いた——この空気は日活のアクション映画にも相似する、と説く。政治をスター赤木にからめて「冊の本にしたことがおもしろい！」

それにしても当時の岸内閣をラブレンドして、我々読者に見せてくれた筆力はさすが東大卒のアタマ。相馬氏は赤木を愛し、童心と青春のエネルギーを私たちに与えてくれたことに感謝する。(村井 実)

※ジャパンツディ賛同者は下記銀行に入金して下さい。
▼振込み先・三菱UFJ銀行札幌支店
口座名「ジャパンツディ代表 村井 実」
店番 637 口座番号 3477659